

令和3年度

第1回

関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時：令和3年6月29日（火）

10：00～11：30

場 所：関東森林管理局ほか
（各委員の事務室等）

次 第

1 開 会

2 議 事

（1）木材の需給動向について

- ①木材の需給及び価格等の動向
- ②関東森林管理局における国有林材の供給状況
- ③各地域の木材需給動向について

（2）その他

3 閉 会

令和3年度 第1回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県県東環境森林事務所 森林部長	川上 晴代
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 領域長	久保山 裕史
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	福田 成芳

関東森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	山口 輝文
資源活用課長	森田 隆浩
企画官(木材需給対策)	渋谷 英夫
素材供給係長	齋藤 悠
供給計画係	濱砂 俊介

(別紙)

令和3年度 第1回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和3年6月29日(火) 10:00~11:30

関東森林管理局 3階小会議室及び各委員事務室等(書面及びWEB会議)

2 議題

- (1) 各地域の木材需給動向
- (2) その他

3 検討結果

各地域の木材需給の動向や各委員からの意見等を総合的に勘案し、原木不足の緩和に向けた取組として、立木販売の公売時期の前倒しを実施するとともに、素材生産請負事業については計画どおり着実に事業を実施し、木材の安定供給を図る必要がある。

なお、今後も地域の状況を踏まえた的確な供給に取り組むため、引き続き関係業界等からの情報収集を行う必要がある。

4 概要(状況報告等)

(1) 各地域の木材需給動向について

- 静岡県では6月入ると関東に遅ればせながらヒノキ柱材を中心に10,000円の値上がり。スギも5,000円の値上がりと強烈的な相場となっている。製品も5月までは比較的落ち着いていたが、関東の相場に引きずられる形で値上がりが始まった。
- 材の入荷は順調である。6月中旬以降、スギ3m柱取り、中目材等は3,000円/m³程度の下降。価格は弱含みで推移するものと思われる。
- 原木の入荷は順調である。梅雨に入り、虫害の心配もあり業者は買い控えの状況ではあるが、全て売り切っている。6月に入り値下げ傾向ではあるが、例年と比較すると高値である。製材品は品不足が続いており、柱(スギ・ヒノキ)、間柱、母屋角、土台など、製材品の価格は上昇を続けている。
- 原木の入荷は以前に比べると増加しており価格は頭打ちとなったが、スギ製品価格は8万円台を維持している。スギ・ヒノキの原木生産は例年、8月旧盆を挟んで減少するため再度価格が上昇に向かう事も考えられる。また、輸入材の不足感はいまだ改善していない。米材は頭打ちしたが欧州材はまだ上げ止まっていない。
- 国産原木の在庫量は低水準で推移しており、合板用材も引き合いが強まっているように感じる。針葉樹合板については引合いが多いことから希望納期には応えられず、新規受注は次月へ繰り越し中であり、在庫は減少中である。
- 3月まではスギはほぼ平年並み、ヒノキはやや高めの価格水準で推移したが、4月から急激に高騰し、5月は平年比較でスギは7,000円、ヒノキは10,000円近い高値となった。直近の共販ではスギは下落傾向となっている。原木価格の高騰に伴い、市場への原木入荷量は増加に向かうと想定されるが、すでに落札率が下がる傾向にあり、販売価格は頭打ちになると予想している。また、木造建築物のコスト増により、非木造化の流れに進みかねないことが懸念される。

- 素材の入荷は例年よりやや多いが、原木不足もあり引き合いは強く、原木価格は高値で安定しつつある。原木不足は今後も続くと思われ、価格も高値で推移すると思うが、6月～9月上旬に入荷する丸太に関しては虫害の影響により安値で取引すると思われる。
- 4月末から急騰していたスギ3m柱材及び中目材は6月に入って落ち着きが見えてきた。鉄の高騰により、機械メーカーからバックホーの2%の値上げを言われている。
- 6月の虫害時期に入り、買い気が弱く値を下げている。入荷に関しては、虫害時期関係なしに出材される見込みである。ヒノキ4m土台、中目材に関しては、現在強保合であるが注意したい。
- 全国的には、スギ中目が1月に13,500円/m³とコロナ前に戻した後、4月までほとんど変わらなかった。しかし5月には、15,500円/m³へと大きく値を上げている。価格は今後、上昇するというよりは高値が続くと考えている。

(2) その他

- 立木販売の公売時期の前倒しについては、今後約9万m³を販売前倒しするというので、取組としてはありがたく感じている。また、原木市場では大量に原木が入荷され、落札されているにもかかわらず、引き取りをされていない材が積まれたままとなっている状況もある。
製材工場においては、材の加工能力より乾燥能力の方が限界の状態となっていることから、これ以上の製材品の増産の余力がほとんど無い。
- 栃木県森林組合連合会の共販所においては、入荷量は多く、時間外や休日出勤によって対応をしている状況にある。やむを得ない対応だが、入荷を一時待ってもらう場合もある。
- 市場によっては、通路にまで材を置いているような状況である。市場での取扱よりは、若干、山から需要者への直送の方が多くなっている。
- 関東圏内においても、地域により市場の状況が様々である。本委員会においても、各地域の原木市場の状況など、写真等による状況の共有ができれば良いと考えている。

○R3年度 立木販売の販売時期の変更について

(単位：㎡)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
当初予定数量	0	122,739	132,564	236,174	44,128	159,695	695,300
前倒し後数量	228	114,433	133,960	266,526	69,657	200,215	785,019
当初予定比 (%)	—	93%	101%	113%	158%	125%	113%

